

人文学部のみなさんへ

— オンライン授業の継続にあたって —

2020年5月7日

人文学部長 大森一輝

残念ながら、新型コロナウイルスの感染が拡大し続けているため、大学として、5月末までは対面（＝教室での）授業をしないと決めたことは、すでにお知らせしたとおりです。

みなさんは、慣れないオンラインでの授業が続くことに、不安と不満を抱えていることと思います。私たち教職員は、それを最大限解消するための努力を惜しみません。しかし、オンライン授業を充実したものにするには、みなさんの協力が必要です。

もしかしたら、みなさんは、自分たちのことを「教育サービスの消費者」だと思っているかもしれません。確かにそういう面はありますが、本来、学生というのは、一人一人が、大学という学びのコミュニティーを主体的に支える主人公なのです。そして、そのための人文学的方法が、人との／書物などとの「対話」です。

まずは、スムーズに授業を受けるために、みなさんの側からも話を切り出してください。

受け身の姿勢で指示を待つのではなく、質問や要望があれば、みなさんのほうから担当の先生に積極的に伝えましょう。専任教員には人文学部のホームページの「教員紹介」からメールを送ることができますし、それ以外の授業担当者にも、LMSのQ&A機能などを使って質問することができます（連絡方法については各教員からの指示を確認してください）。学習全般に関する相談は、各学年のゼミの先生が受けてくれます。

各種手続きその他については、人文学部の事務室に問い合わせてください。電話でも（011-841-1161 [代表] にかけて、人文学部事務室につないでもらってください）、メールでも（jinbun@hgu.jp）構いません。

オンライン授業で技術的な（機材の／アプリの）トラブルが生じたときのために、「学生によるテクニカルサポートチーム HGU Student Omoiyari Support (SOS)」も発足しました。G-PLUS!で案内が配信されていますので、活用してください。

態勢が整ったら、本格的な「対話」です。LMSなどで配られる資料を、これまで以上によく読みましょう。それ自体が、資料との「対話」です。そして、「わからないところ」を書き出して、先生に質問しましょう。教員にとっても学生にとっても、教室で説明をする／それを聞くのとは違う大変さがあるだろうと思います。それでも、「対話」は続けてください。その経験は、みなさんの「問いかける力」を磨いてくれるでしょう。

不自由な環境でも、怒り諦め押し黙るのではなく、教室とは別の形で豊かな学びを実現しましょう。私たち教員も、もちろん、一方通行にならないよう心がけます。それを受けとめて、ボールを打ち返してください。困難な時だからこそ、自分を自覚的に鍛えるために。そして「コロナ後」の世界に備えるために。